

鹿屋体育大学学位論文等の作成要領

〔平成元年2月15日〕
学 長 裁 定

改正 平成17年3月22日
平成23年2月17日
平成23年9月15日
平成24年2月23日
平成31年4月19日

1 趣旨

この要領は、鹿屋体育大学学位細則（昭和63年細則第5号）第35条の規定に基づき、学位論文及び論文概要の作成要領について必要な事項を定める。

2 学位論文の作成要領

(1) 原稿のフォーマット

原稿は、ワードプロセッサで作成する（A4 判縦置き横書き）。本文は全角40字30行（ダブルスペース、英文綴りおよび数値は半角）で、上下2.5cm、左2.5cm、右2cmの余白をとり、フォントの大きさは、英文は12ポイント（Times New Roman）、和文は10.5ポイント（本文は明朝体、見出しはゴシック体）とする。本文は原則として現代かなづかいとし、外国語をかな書きする場合は、カタカナ表記とする。

(2) 論文の表紙及び背表紙は、図1のとおりとする。

(3) 論文の執筆体裁は、原則として図2のとおりとし、1枚目に論文題目等を記し、2枚目から論文の内容を記載するものとする。

なお、2枚目から頁番号を付すこと。

3 論文概要の作成要領

(1) 用紙は、A4判（縦長横書き）とする。

(2) 印字体は、前記2（1）の学位論文の作成要領に準じ、論文概要を和文で1800字から2000字程度又は英文800語程度で執筆するものとする。

(3) 執筆体裁は、図3のとおりとし、文頭に「論文概要」と記載のうえ、論文題目及び氏名を記し、引き続き、論文の概要を記載するものとする。

4 論文作成上の注意

以下の(1)～(10)については、日本体育学会の許可を得て、体育学研究投稿規定を一部変更したものを本学の論文作成上の注意とするものです。

(1) 題目

題目は、研究の内容を的確に表現しうるものであることとする。副題をつける場合には、コロン（:）で続ける。

(2) 符号

次のような符号を用いる。

ア ピリオド（.）およびコンマ（,）

イ 中黒（・）

相互に密接な関係にあつて、一帯となる文字や語句などを結ぶ際には中黒（・）を用いる。アルファベット文字を用いた用語には、中黒は使わない。

ウ ハイフン（-）

対語・対句の連結、合成語、ページの表記に用い、半角とする。

エ ダッシュ（—）

全角1文字分のダッシュ（—）は期間や区間を示すのに用いる。波ダッシュ（～）は原則として用いない。全角2文字分のダッシュ（——）は注釈的な説明をするのに用いる。

オ 引用符は、和文の場合には「」を、英文の場合には“ ”を用いる。

カ コロン（:）

副題、説明、引用文などを導く場合に用いる。

キ セミコロン（;）

複数の文献が連続する場合に用いる。

ク 省略符（…）

引用文の一部あるいは前後を省略する場合は、和文の場合には3点リーダー（…）、英文の場合には下付の3点リーダー（...）を用いる。

(3) 数字

ア 数を表示する場合は、原則としてアラビア数字を用い半角とする。

イ 文字や記号の隅につける添え字はその位置に明瞭に表記する。

(4) 単位

計量単位は、原則として、国際単位系（SI単位系）とする。

(5) 略語

論文中において高い頻度で使用される用語に対して、著者が便宜的に省略した語を用いる場合は、初出時に略さず明記し、（以下「……」と略す）と添え書きしてから、以後その略語を用いる。

(6) 引用

論文中で文献を引用する場合には、基本的な文献を厳選し、正確に引用すること。引用した文献はすべて文献表に掲載する。本文中の文献は原則として著者名と発行年で示すこと。ただし、この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではない。

ア 本文中で文献の一部を直接引用するときは、引用した語句または文章を、和文の場合には「」、英文の場合には“ ”でくくること。

イ 著者が2名の場合、和文の場合には中黒（・）、英文の場合には“and”を用いてつなぐこと。ただし、著者が3名以上の場合、筆頭著者の姓の後に、和文の場合には「ほか」、英文の場合には“et al.”を用いる。複数の文献が連続する場合はセミコロン（;）でつなぐこと。

ウ 本文中で参照した文献を明記する場合には、次のような形で著者名と発行年を記入する。同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の発行年をコンマ（,）でつなぐこと。同一著者の同一年に発行された複数の論文は発行年の後にa、b、c、…をつ

けて区別する。

エ 翻訳書の著者を表記するときは、カタカナ表記とする。

オ 翻訳書と原著の両方を引用したときには、翻訳書は上記エに従って記入する。原著は英文表記とする。

(7) 注記

注は本文あるいは図表で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみに用いる。その数は最小限にとどめること。注をつける場合は、本文のその箇所に注1)、注2) のように通し番号をつけ、本文と論文末の文献表との間に一括して番号順に記載する。注記の見出し語は「注」とする。

なお、章毎に注をつけてもよい。

(8) 特殊文字

ア ゴシック

ゴシックは見出し語のみに使用する。本文中の特定語句を強調するためのゴシック体の使用はさけること。

イ イタリアック

次の場合にはイタリアック体を用いることができる。

(ア) 数式中の数

(イ) 数値や量

(ウ) 統計法に用いられる記号

(エ) 動物・植物の学名

本文中の欧語を強調するためにイタリアック体を使用することは、引用の場合などを除いて避けること。

(オ) アンダーライン

文意を強調するためのアンダーラインは使用しないこと。

(9) 図表の作成

図表は、本文の内容近くに適宜入れ込む形で作成すること。

ただし、図表を組み込むことが困難な場合は、該当する本文の頁の次頁に図表の頁を入れ込む形で作成してもよい。

なお、章毎に一括して（各章末に）作成してもよい。

図のタイトルはゴシックで下に、表のタイトルは上に記し、本文を通して図表それぞれに番号を付けること。なお、図表注は表の下に一つ一つ改行し、注符号は上つきダガーで†、††、†††などの順に用い、アスタリスク（*、**、***）は統計学上の有意水準を示すときにのみ用いる。

(10) 文献表の作成

文献表の見出し語は「文献」とする。文献の記載は原則として著者名のアルファベット順とし、書誌データには通常、著者名・発行年・題目（書名）・誌名・出版社・ページなどの情報が含まれる。書式は下記の例にならうこと。

なお、章毎に示し、論文の巻末には、すべての文献の文献一覧表を作成してもよい。

ア 定期刊行物（いわゆる雑誌）の書き方

定期刊行物の場合の書誌データの表記は、著者名（発行年）論文名・誌名、巻（号）：ページ．の順とする。

(ア) 著者名および発行年

共著の場合、和文の場合には中黒（・）、英文の場合には“and”で続ける。ただし、英文で3人以上の場合にはコンマ（,）でつなぎ、最後の著者の前だけに“and”を入れる。発行年は著者名のすぐ後の（ ）内に記入し、論文名と区切る。著者名の前に番号は不要。同一著者、同発行年の複数の論文を引用した場合は年号の後にa、b、c、…をつける。

(イ) 論文名

論文名の最後はピリオド（.）を打つこと。英文では、題目の最初の文字だけを大文字にする。

(ウ) 誌名

和文誌の場合は略記せず、必ず誌名全体を記載すること。英文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法に従うこと。それ以外は省略しないこと。誌名の最後はコンマ（,）をつけること。

(エ) 巻号およびページ

巻数の後にコロン（:）をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン（-）で結び、最後にピリオド（.）を打つこと。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を（ ）で巻数の後に示すこと。

イ 単行本の書き方

書き方の原則は定期刊行物の項に従うこと。

(ア) 単行本全体の場合

著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は省略）．発行所：発行地、引用ページ（p. またはpp.）の形式とする。なお、引用箇所が限定できない場合には、ページは省略する。また、編集（監修）書の場合には、「編」、「監」、あるいは「編著」と表記する。英文では編集者が1人の場合は（Ed.）、複数の場合は（Eds.）をつける。

(イ) 単行本の一部の場合

論文（章）著者、論文（章）の題名の後に編集（監修）者名と「編」、「監修」、「編者」などをつける。英文の場合には、“In:”をつけたあと編集（監修）者名と（Ed.）、または（Eds.）をつける。

(ウ) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し、その後ろにコロン（:）をつけて訳者の姓名を記入する。共訳の場合は中黒で、訳者が3人以上の場合は「:…ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ記入する。英文の翻訳書の場合、原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後に< >内に付記する。

図1 (論文の表紙等)
(表 紙)

令和 年度 ○○論文
○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○ (論文題目)

鹿屋体育大学大学院 体育学研究科
体育学専攻

(氏 名)
○ ○ ○ ○

(ファイルの)
背 表 紙

令和
○ 年度
= 論文
題目
○○ 論文
= ○
○ =
氏 名
=

図2 (論文の執筆体裁)

(1 枚 目)

2.5cm

○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○ (論文題目)

鹿屋体育大学大学院 体育学研究科
体育学専攻

学籍番号○○○○○
(氏 名)
○ ○ ○ ○
令和 年 月

2.5cm 2cm 2.5cm

(2 枚目以降)

2.5cm

2.5cm 2cm

— 1 — 2.5cm

図3（論文概要の執筆体裁）

論 文 概 要 ○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○（論文題目） 氏 名 ○ ○ ○ ○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○
